

中田 國太郎 選

投稿数18首

引間豊作選

投稿数23句

浜木綿へ波おだやかに出雲崎

金沢 飯嶋寿万子

我慢坂心を据えて五ヶ月後待望うれし米寿を迎える
蜩のひびき夕暮ふかむなか短きいのちあすへつながむ
大都会駅で寝て いるホーメンレスきつと幸福夢を見ている
トビウオの栄光を背に水泳にいのち尽してローマに逝きぬ
公約は守ると良いこと叫ぶけど誰の政治も農は忙しい
軒簾押して入りくる山風は清やかにして身をつつみくる
在りし日の母の着し服は心地よく色褪せ初むも捨て難く着る
天空に幻想のリング夢の如く宇宙はすばらしひテレビ見て いる
晩学の涸れかかりたる大脑に水をそそぎて駄句を綴りぬ
ふと気付く亡母の生き年追い抜きて生きる吾は感涙にむせぶ
戻り梅雨お日様マーク少なくて季候異変や野菜もいじけ

皆野 普善次郎
皆野 金子善次郎
皆野 野口貞子
皆野 新井民子
皆野 四方田利男
皆野 真下杏子
皆野 新井茂
皆野 三沢真下
皆野 三沢新井
皆野 金崎浅見
皆野 金崎新井
皆野 皆野山田
皆野 塩田葉子
皆野 笠原豊子
皆野 三江子雅子
皆野 千代豊子
皆野 鈴木叶子
皆野 キク

(評) 日本も高齢化社会に突入し、様々な問題が生起している。その中で、病を克服して必死に生きようと/or している老を、ないがしろにしようとする風潮があるのは、残念なことである。この厳しいつしよの中で作者は、今日の充実を目指して八十路を「気丈」に生きようと人生観を吐露しているのである。この主体的な生き方に共感する。老いの生を明るく謳歌したいものである。吉井勇の歌をあげる。「年ひとつ加ふることも楽しみとしてしづかなる老に入らまし」野口作、青白い油蟬の子を見失めて声をかけている作者の愛情がにじむ。金子作、「我慢坂」が効いている。

夏の畠下着取替日に三度
跳びつきて透ける玻璃戸の雨蛙
三尺 新井 民子

金沢 関和 トヨ

誰が掛けし辻の地蔵にサングラス
三尺 真下 杏子

お宝と返すをこばむ藜杖
下日野沢 高山 ユウ

にも柿本人麻呂が「み熊野の浦の浜木綿」と詠んでゐる。この浜木綿は出雲崎と言つから、かの芭蕉が「おくのほそ道」で旅して元禄二年八月十八日午後、同行の曾良と到着して草鞋を脱いだ旅籠の街でもある。

俳句・短歌を募集

併記 短歌と劈葉
作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して
総務課へお寄せください。
8日必着 1人1句、1首に限ります。

8日必着



壹煌くん



中大浜区
大浜 治男さん
千佳さん



戦場・土京区
今野 貞治さん
彩子さん
大好きなさっちゃん☆
みんなから愛される
健やかな子になってね！

咲智子ちゃん

下原区
山中 秀則さん
祐季子さん
いっくん誕生日おめでとう!
お兄ちゃんにも負けない、
たくましい子になってね☆

※満1歳の赤ちゃんを募集します。10月号の締め切りは、9月10日(木)まで。ホームページからも応募できます。